

平成 17年度 加納城跡発掘調査の成果

平成 16 年度の発掘調査で、本丸の大手門北側の堀底に堤防のような土手が直角に交わる「堀障子（ほりしょうじ）」が見つかりました。平成 17 年度は堀障子をより明らかにするため、面積を広げて発掘しました。

大きな土手が十字に交わり、その間を小さな土手が堀底をいくつにも区切る形であることが分かりました。その間隔は江戸時代の長さの単位である 1 間（約 1.8 m）や 2 間になっています。

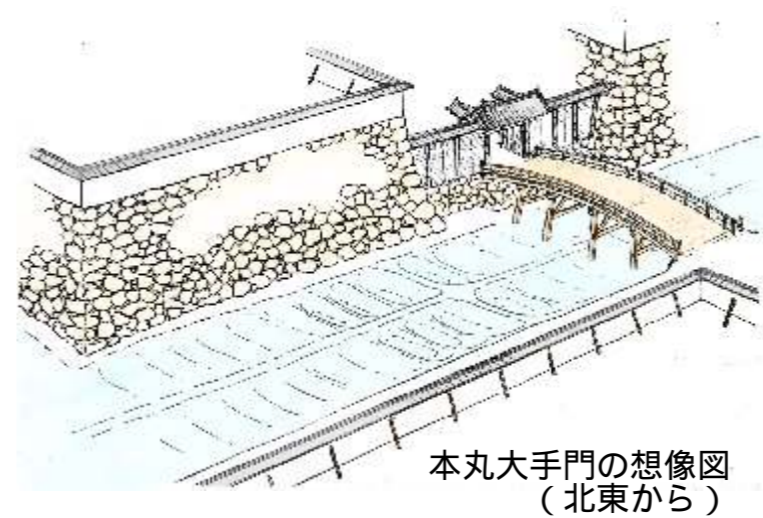
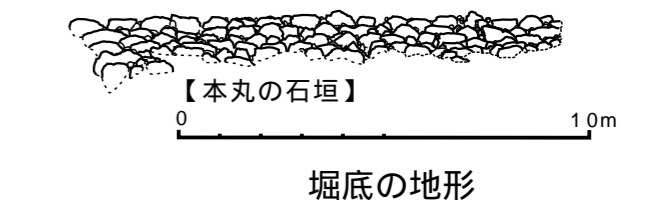
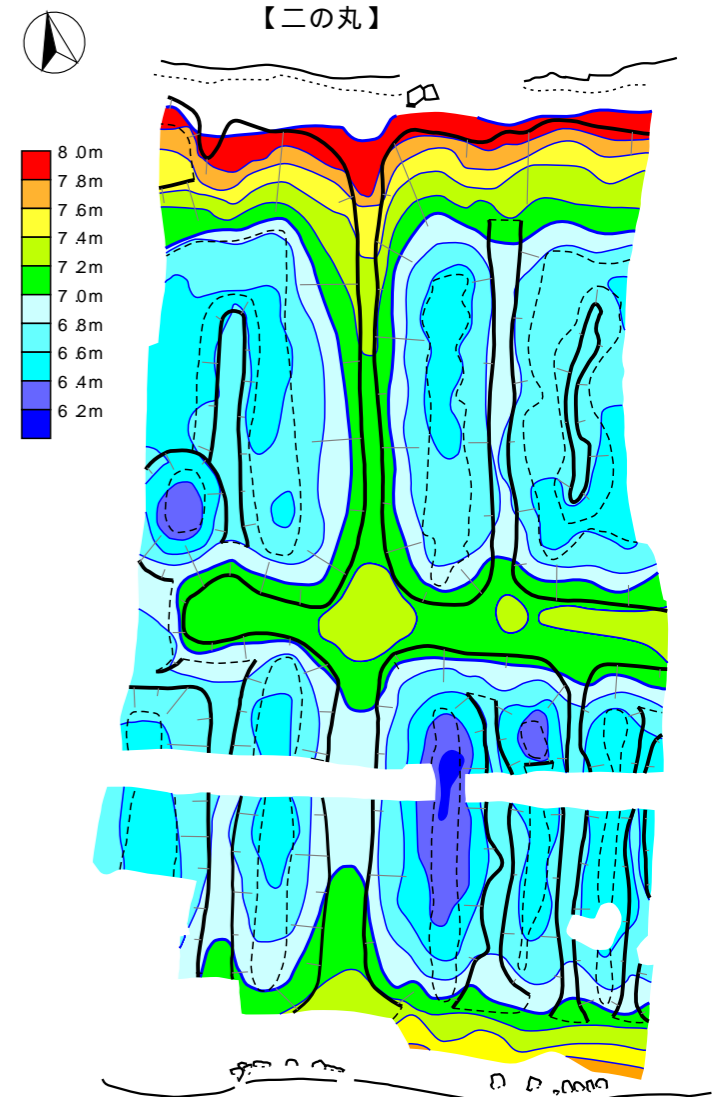
堀障子は、堀底に凹凸を作ることによって、敵の侵入を防ぐためのもので、関東地方の戦国大名であった北条（ほう

じょう）氏の城の特徴といわれていました。近年の発掘調査で、1600 年代の初め頃に作られた城で発見が相次いでいます。その頃は、天下分け目の関ヶ原の合戦が終わった直後で、未だ徳川氏と豊臣氏が対立する緊迫した情勢でした。そのような状況で築かれた城に多く見つかることから、意外に軍事的効果が高かったのかもしれませんが。

また、たくさんの瓦が捨てられている場所が 2 ヶ所で見つかりました。1 ヶ所は堀底の本丸寄り、もう 1 ヶ所は二の丸寄りです。見つかった場所から推定すると、それぞれ本丸、二の丸の建物に使われていたものと考えられます。本丸からの瓦は火災などによって焼けており、火事が原因で建物を取り壊した跡と見ることができます。古文書には本丸が火災にあった記録が無く、新たな発見ということができます。



堀障子（調査区南東から）



【加納城の発掘に関するお問い合わせ】
 岐阜市教育委員会 社会教育室 電話 265-4141 (内線6357)
 (財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所 電話 241-8122
 HPアドレス <http://www.gifu-gifu.ed.jp/org/maibun/>